

を望見することができた私は、ズボンに火が点いたように、足がすくんでしまったことを覚えている。てんで能力のちがう教え子の私に対して、こうまでして下

さった先生の師情が、いつになったら、この私にもわかるのか。

(本学第一法学部長・前本館々長)

馬琴研究会と老先生

鵜 月 洋

岡村老先生をまじえて、暉峻・洞両先生と私とが、早稲田大学図書館にある曲亭馬琴の自筆日記の解説をはじめたのは、たしか昭和三十一年のことである。

はじめのうちは、毎週二回、日をきめて、図書館の老先生のお部屋へ通ったものであるが、一、二年たつうちには、それぞれにおいそがしい先生方なので、んだんそれもむずかしくなってきた。それでも老先生は、その日には、ちゃんと用意して、私どもを待っていて下さった。

暉峻先生の御尊父が老先生と早稲田の

同級生というのだから、私などは老先生からみたら孫のようなものである。その私が老先生をお待たせしては申しわけない。そう思って、私は、勤め先の上石神井の早大学院校舎から、いつも息せききって駆けつけた。すると、老先生はすでに机の上に自筆日記を開いておいでで、かならず下調べをなさっていらした。「きよう読むところは、なかなかおもしろいですよ」とか、「きようのところはむずかしい。読めないところがいくつかありますよ」などと、前もって予備知識

などを与えて下さる。不勉強の私は、まずここで深く最敬礼をして、そのたびに勉強の意欲をかきたてられたものである。

しかし、そうしたかたちの判読会もせいぜい二年ほどで、週二回定期的にはどうにも通いきれなくなった。そこで、年何回かの合宿をして解説しようということになり、熱海の双栢舎、健保の熱海寮・奥利根寮などをしばしば利用することになった。

合宿はたのしい反面、時間おかまいなしで馬力をかけるために、かなりきびしいものになり、またそれだけに能率的なものになった。春・秋・冬は熱海、夏は湯絵曾へ行って、三、四泊の判読行をおこなった。

老先生が原本をこらんにになり、洞両先生が私が書き手になり、一同、大きく複写した原本の写真を見ながら解説をつづけるわけであるが、ぶつづけに三時間ものコンをつめると、とくに視神経が疲れてくる。

「どうですか、このへんでちょっと、休

懇といたしませんか」と、まことしやかな顔をして提案——というと体裁がいいが——じつは、まさきにネをあげるのは、いちばん図体が大きく、いちばん年若で、いちばんだらしない、幹事役の私であつた。

三先生とも、たいていは賛成して下さいが、何度かに一度は、老先生の口から、「調子が出ているようだから、もう少しやりませんか」というはげましのこゝとばが出された。

老先生がそうおっしゃるのに、若い者が弱音を吐いてはと氣をとりなおして、そのままたびたび解読・筆耕をつづける。しばらくして、フト氣づくともなく氣づく、と、老先生の声が、いつのまにかとぎれている。顔をあげてそつと老先生のほうをうかがいみると、老先生は、本を読んでいる姿のまま、ゆつたりと居眠りをされている。

不遜無頼のくせに、敬老心だけは人一倍もちあわせている私は、それまでの調子をくずさずに読みつづけ、書きつづけ

る。せつかくの老先生の快いねむりを妨げまいとする心づかいだけは——いま思ひ出してもたのしいものであつた。

私は、根がゲスで食い意地がはつてゐる。そのうちひまでもつくつて、食物の本でも書こうかとさえ思っている。

そんな私のことだから、食事時になると、かならず食べ物のうまい、まずいから、料理のはなしを口にする。そのときいつも相槌をうって、さらに新しい話題を投げかけ、新しい知識を授けて下さるのは老先生であつた。

先生は、外国旅行の折に召しあがつた料理のあれこれをたのしそくに話して下さい。ブツ切りにしたうなぎのフライ、名もしらぬ巨魚のムニエル、イギリスの家庭料理のはなし、スペイン料理、イタリア料理と、はなしはつきない。

熱海で合宿中の昼食は、散歩がてら埋立地の洋食屋へ出かけていくことが多かったが、そんなときでも、八十歳をこえた老先生は、チキンソテーとかチキンコロッケ、ときには小形のシャトーブリア

ンを、パンとともに一皿召しあがつた。「なかなかおいしかった。私には、あのくらいでちょうどいい」とおっしゃるのがつねであつた。

足もお丈夫であつた。ある夏、湯松會に合宿中、谷川岳へケールブルカーで登り、明神平のあたりを散策したこともある。「便利になりましたね」と、ただひとことおっしゃっただけであつた。

毎年、暮の二十五日すぎから、年末ぎりぎりまで、熱海で合宿をするのが年中行事の一つであつたが、去年の冬は、私たち三人で、淋しかった。

馬琴日記の解読は、なかなか思うように進まない。きつと老先生も、地下で、菌がゆく思つていらつしやるかもしれない。しかし、私たちは、老先生がみずから範を示されたように、うまず、たゆまず、根氣よく、辛抱よく、ただじつくりと腰をすえて読みすすんでいくだけである。その私たちの決意と努力を、地下の老先生はあたたかく見守つて下さるにちがいない。

(本学政治経済学部講師)